

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	56		学校名	竜ヶ崎南高等学校				課程	全日制		学校長名		斉藤 辰彦			
教頭名	岩 崎 卓 士										事務長名		梅 澤 美由紀			
教職員数	教諭	26	養護教諭・ 養護助教諭	1	常勤 講師	5	非常勤 講師	2	実習教諭、実習講 師、実習助手	1	事務 職員	3	技術職 員等	4	計	45
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		58	32	61	41	66	23			185	96	9			

2 目指す学校像

「すべての教育活動は生徒のために」を基本理念として、一人一人の生徒を大切にしながら、地域や社会の要望に応えられる、誠実で自主的精神に充ちた、創造性豊かな「将来社会に貢献できる人材」を育成する学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	中学校段階からの基礎知識の定着に課題が見られる。指示された学習への取組み姿勢は良いが、より高い学習課題に積極的に取り組む態度を養う必要がある。	基礎的な知識の定着を図り、それらを活用して学習を進めることができるよう、主体的な学習態度を身に付けさせる工夫をする。多様な学力の生徒に対応できる授業形態を工夫する。
進路指導	就職指導など、進路実現に向けた指導には前向きに取り組むが、自分の将来について中長期的な展望を持ち主体的に行動することに消極的である。	全教科・全領域を通じ、体験活動等を取り入れつつ、自己の生き方・在り方、キャリア形成について考えを深めさせる。
生徒指導	基本的生活習慣の定着、服装容儀という点では大きな改善が見られる。特別指導件数も減少し、内容も軽微なものとなっている。	保護者と連携した指導体制を構築する。また地域社会や関係機関と連携し、指導の充実を図る。
特別活動	部活動の加入率、定着率が低く、対外試合等への単独チームでの出場や実績をあげることが難しい状況が続いている。生徒会本部役員の活動への取組は良いが、全体から見ると学校行事への取組の姿勢が消極的にも見られる。	生徒の自発的・自主的活動を促すために、キャリアパスポートを活用した、学校行事への取組を図る。そのため、支援の仕方にも工夫が必要である。学校全体として行事を活性化するための組織的な取組が必要である。
働き方改革	丁寧な学習指導や部活動の指導が在校時間の延長につながっている。学習指導では、若手を中心とした ICT 活用によって、業務の軽減が図られるようになってきている。	教材や問題を作成する際の ICT 活用や調査、アンケート集計における ICT 活用の浸透を図る必要がある。部活動では活動方針に沿った活動計画が必要である。

4 中期的目標

1	自発的学習の習慣化を図り、学力の向上に努める。
2	一人一人の能力適性に応じた進路指導を推進し、個に応じた進路実現を図る。
3	規則正しい生活の実践を通して、自律的生活習慣の確立をめざす。
4	体育活動や文化活動を奨励し、強健な心身と豊かな情操の育成に努める。
5	勤労や創造の喜びを体験させ、奉仕の心と望ましい勤労観の育成に努める。
6	学習支援や特別活動の場におけるＩＣＴ活用や業務の効率化などを図ることによって、長時間労働の是正を図る。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための指導方法の工夫・改善を進め、基礎学力の向上を図る。	①ICT環境の活用をはかり、きめ細かな指導体制の整備と「個に応じた指導」を充実させる。 ②探究的な学習や体験活動等を通じ、持続可能な社会の創り手となることができるような資質・能力を育成する「協働的な学び」を実現する。
2 キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。	③人生や社会を見つめる態度を養い、生徒一人一人の興味や適性に応じた進路選択を支援し、卒業予定者全員の進路決定を目指す。
3 基本的生活習慣を身に付けさせる。	④制服をきちんと着こなし、身だしなみの大切さを学ばせる。 挨拶の励行を徹底させ、社会人としてのマナーを学ばせる。 社会人として信頼されるために、時間を守って生活できる習慣を身に付けさせる。 環境美化に努める習慣を身に付けさせる。 いじめのない環境を整え、他人を思いやる精神を学ばせる。
4 キャリアパスポートを活用して学校行事における生徒の達成感や成就感を養う。部活動への参加を奨励し、特別活動の充実を図る。	⑤HR等でキャリアパスポートを活用し、生徒自らが学びを振り返り、将来を見通す機会を増やす。 ⑥部活動加入率向上を図り、強健な心身と情操の育成を目指す。
5 生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。	⑦学校での環境美化や地域社会での体験活動を奨励し、道徳的実践力の育成を図り、社会で生きる力を育む。
6 地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。	⑧保護者との連絡・連携に努め、教育活動への理解を求める。 ⑨地域社会や近隣市町村の小中学校との連携に努め、地域になくてはならない学校作りを目指す。
7 効率的な業務の遂行と労働時間の短縮を目指し、労働の質を高める。	⑩校務支援システムの活用と、業務の電子化による効率化を図る。 ⑪部活動活動方針に沿った指導体制を確立し、適切な休養と活動時間の確保に努めることで、効率的な活動と成果を目指す。

